

大選挙区非移譲式制限連記制のシミュレーション

C

160728 城倉啓

7月26日第3部門審議会決議内容を実際の市町村議会選挙開票結果に当てはめた場合、資料「コンドルセのパラドクスと大選挙区連記投票制」(160526 第2部門審議会太田光征委員提出)の懸念が起りうるかのシミュレーションを行った。

第3部門で改正提言を行おうとしている内容は、①政令指定都市を除く市町村議会選挙に大選挙区非移譲式制限連記制を導入すること、②その際に議員定数20名までの議会には2名までの連記、30名までならば3名まで、40名までならば4名、41名以上ならば5名までの連記を認めるというものである。

(A) 2013年青ヶ島村議会議員選挙

議員定数6名 立候補者数7名 制限連記数2名 有効投票総数103名

有効投票数の実際は103名であるが、計算の便宜のために100名とする。実際には、全立候補者は無所属であるが、太田委員の仮説を当てはめるために、2人の候補者をA党所属とし、A党の支持率29%と仮定する。また、2人の候補者をB党・C党所属と仮定し、B党・C党の支持率15%ずつと仮定し、相互の支持者が相互の立候補者にすべて投票したと仮定する。残りの立候補者を無所属とする。

この仮定でB党・C党の議席独占が起これば、太田委員の懸念があたるわけだが、議員定数が6名に対して、連記数が2名という開きがあるので、そのような事態は起らない。

A党甲候補者の得票 29票

A党乙候補者の得票 29票

B党候補者の得票 30票

C党候補者の得票 30票

残りの82票を三人の無所属候補が互いにほぼ均等に分け合う場合でさえも、28票・27票・27票となるので、B党・C党の議席独占は起らない。起くるのは政党候補者有利という傾向である。立候補者数が多ければ多いほど、その傾向は強くなると推測される。

前掲資料2-3頁中のイギリスのノルウィッチ選挙区は、二議席で二名連記投票の例であるので、完全連記制の事例であろう。

最も議員定数と制限連記数とが近接した青ヶ島村議会選挙においてさえ起りえない現象であるから、議員定数と制限連記数がより離れている他の市町村議会選挙においても起りえないと推論しうる。「諸外国の選挙制度」5頁1-6行目参照(7月26日第3部門審

議会配付資料)。また、柴崎暁「第二部門「選挙制度」における傍聴者発言」1－2頁によれば、支持率6：4、議員定数14名に対し連記数10名以上の例を参照。

もし、連記制になれば、この選挙において死票はない。落選した候補者に投票した者も必ずいずれかの当選者に一票を投じているからだ。

(B) 2015年昭島市議会議員選挙

議員定数22名 立候補者数23名 制限連記数3名 有効投票総数41,089票

実際の党派とその候補者数、得票率は以下のとおり

| 党派名 | 候補者数 | 当選者数 | 得票数 | 得票率 |
|--------------|------|------|--------|--------|
| 自由民主党 | 7 | 7 | 12,254 | 29.82% |
| 公明党 | 5 | 5 | 9,963 | 24.25% |
| 日本共産党 | 3 | 3 | 5,331 | 12.97% |
| 民主党 | 2 | 2 | 4,091 | 9.96% |
| 昭島・生活者ネットワーク | 2 | 2 | 3,175 | 7.73% |
| 社会民主党 | 1 | 1 | 2,149 | 5.23% |
| 無所属1 | 1 | 0 | 1,235 | 3.01% |
| 無所属2 | 1 | 1 | 1,327 | 3.22% |
| 無所属3 | 1 | 1 | 1,564 | 3.80% |

定数22名に対し3名の連記で議席の独占という現象は、青ヶ島村以上に起こりえない。

立候補者数23名に対して22名が定数であることから、この選挙の要点は誰が落選するのかにある。

試みに自由民主党（12,254票の29.82%）に対し、日本共産党と民主党と昭島・生活者ネットワークが選挙協力をしたとしよう（三党合計で12,597票の30.66%）。自民党支持者は、自民党の7名の候補者に自分の三票を投じるであろうから36,762票を7名で分ける。三党が効率的に協力し、太田委員の仮説通りに、ある党の支持者である一人の人が協力する他党候補者に一票ずつを連記し投じたとしても、37,791票を7名で分けることに他ならない。結果は、自民党も三党合計も7議席ずつの獲得なのであって、三党の議席独占ということとは起こらない。

太田委員の想定そのものに無理がありはしないか。すなわち、30の議席を争う連記数3名の選挙において、議席を総取りしたい大政党が30名立候補させるという想定、また30名の立候補者に同じ票数が入るという想定、3つの勢力均等な中規模政党が存在するという想定、また三党が一致結束して大政党に対抗して完全に協力し10名ずつを立候補させるという想定、この10名ずつにもまったく同じ票数が入るという想定、その他の小

政党や無所属候補を支持する選挙人の予期し得ない投票行動（たとえば自民党に投票する可能性や、自党の支持率に見合った候補者数を擁立する可能性）を無視するという想定など。

昭島市の場合に、自民党が22名の立候補者を立て、共産党8名・民主党7名・生活者ネット7名の立候補者を立て、それぞれが議席の独占を目指すだろうか。自民党は36,762票を22名で割る結果、一名あたり1,671票しか得られないという危険を冒すのだろうか。むしろ、最低票数で当選した「無所属2」の得票1,327票を単純に三倍した3,981票の獲得が見込める候補者を、擁立するだろう。また、支持率と定数に見合った立候補者数を擁立するだろう。その行動予測は、その他すべての政党にもあてはまる。実際の各政党の得票率と議席占有率が比例的に推移していることも示唆的だ。自民党の議席独占が昭島市の場合に起こり難いという事情は、後述する八王子市・世田谷区においても当てはまる。

また2名の候補者を擁立し当選させた民主党と生活者ネットワークは、もう1名を積極的に擁立させるかもしれない。3名までのグループ化が促されることが予測できる。

なお、もし連記制になれば、この選挙においても青ヶ島村と同様に死票はない。

(C) 2015年八王子市議会議員選挙

議員定数40名 立候補者数51名 制限連記数4名 有効投票総数198,211票

実際の党派とその候補者数、得票率は以下のとおり

| 党派名 | 候補者数 | 当選者数 | 得票数 | 得票率 |
|---------------|------|------|--------|--------|
| 自由民主党 | 12 | 12 | 55,984 | 28.24% |
| 公明党 | 10 | 10 | 43,805 | 22.10% |
| 日本共産党 | 5 | 5 | 23,273 | 17.34% |
| 民主党 | 4 | 3 | 16,239 | 8.19% |
| 八王子・生活者ネットワーク | 2 | 2 | 9,259 | 4.67% |
| 維新の党 | 2 | 1 | 7,684 | 3.88% |
| 社会民主党 | 1 | 1 | 6,490 | 3.27% |
| 減税日本 | 1 | 0 | 1,102 | 0.56% |
| 無所属1 | 1 | 1 | 4,409 | 2.22% |
| 無所属2 | 1 | 1 | 3,991 | 2.01% |
| 無所属3 | 1 | 1 | 3,704 | 1.87% |
| 無所属4 | 1 | 1 | 3,241 | 1.64% |
| 無所属5 | 1 | 1 | 2,985 | 1.51% |
| 無所属6 | 1 | 1 | 2,847 | 1.44% |

| | | | | |
|---------|---|---|-------|-------|
| 無所属 7 | 1 | 0 | 2,832 | 1.43% |
| 無所属 8 | 1 | 0 | 2,524 | 1.27% |
| 無所属 9 | 1 | 0 | 2,122 | 1.07% |
| 無所属 1 0 | 1 | 0 | 1,726 | 0.87% |
| 無所属 1 1 | 1 | 0 | 1,681 | 0.85% |
| 無所属 1 2 | 1 | 0 | 1,140 | 0.58% |
| 無所属 1 3 | 1 | 0 | 732 | 0.37% |
| 無所属 1 4 | 1 | 0 | 441 | 0.22% |

定数 40 名に対し 4 名の連記で議席の独占という現象は、青ヶ島村・昭島市の場合以上に起こりえない。太田委員の想定に対しては青ヶ島村・昭島市の事例と同様の批判が成り立つ。

政党化がかなり進んでいる一方で、無所属候補の立候補の多さと落選数の多さが特徴として現れている。「好意当選」狙いと推測される。

「無所属 6」は 2,847 票で当選している反面、維新の党は 7,684 票を獲得しながら 2 議席を取ることができていない。連記制になれば維新の党は 2 名当選し、減税日本や無所属の中の近い考えの候補者をも自党から擁立し、当選させることができるかもしれない。連記制にすることでグループ化が促されると推測する。裏返しの効果として、無所属の「好意当選」は減るだろう。偶然に当選する要素が弱まるために立候補が控えられるからだ。同じ理由で、いわゆる「問題議員」の落選も促しうる。

4 名立候補させた民主党は（1 名落選）、4 名連記によって効率的に議席を獲得する可能性が高い。昭島市と類似して 4 名までのグループ化が起こりやすい。

死票の合計は 18,437 票。その内訳は、民主党の落選議員 1 名 2,575 票、維新の党落選議員 1 名 1,562 票、減税日本 1,102 票、「無所属 7」から「無所属 1 4」の計 13,198 票。死票率は 9.30%となる。4 名連記制となった場合に死票を投じた 13,198 人の選挙人のうち、少なくとも 1 名の当選に寄与する確率は単純計算で三倍となる。その場合の死票率は 3.10%となる。制限連記制に死票率を下げる効果がある。

(D) 2015 年世田谷区議会議員選挙

議員定数 50 名 立候補者数 82 名 制限連記数 5 名 有効投票総数 303,361 票

実際の党派とその候補者数、得票率は以下のとおり

| 党派名 | 候補者数 | 当選者数 | 得票数 | 得票率 |
|-------|------|------|--------|--------|
| 自由民主党 | 18 | 16 | 84,448 | 27.84% |
| 公明党 | 10 | 10 | 36,320 | 11.97% |

| | | | | |
|-----------------|----|---|--------|-------|
| 日本共産党 | 5 | 5 | 27,888 | 9.19% |
| 民主党 | 6 | 4 | 22,708 | 7.49% |
| 世田谷・生活者ネットワーク | 5 | 2 | 15,630 | 5.15% |
| 社会民主党 | 3 | 1 | 10,234 | 3.37% |
| 維新の党 | 3 | 1 | 9,677 | 3.19% |
| 世田谷行革 110 番 | 1 | 1 | 5,798 | 1.91% |
| 次世代の党 | 2 | 1 | 5,712 | 1.88% |
| 生活の党と山本太郎となかまたち | 1 | 0 | 2,412 | 0.80% |
| 幸福実現党 | 1 | 0 | 580 | 0.19% |
| 無所属 1 | 1 | 1 | 9,890 | 3.26% |
| 無所属 2 | 1 | 1 | 7,132 | 2.35% |
| 無所属 3 | 1 | 1 | 5,879 | 1.93% |
| 無所属 4 | 1 | 1 | 5,471 | 1.80% |
| 無所属 5 | 1 | 1 | 4,823 | 1.59% |
| 無所属 6 | 1 | 1 | 4,228 | 1.39% |
| 無所属 7 | 1 | 0 | 3,741 | 1.23% |
| 無所属 8 | 1 | 0 | 3,511 | 1.16% |
| 無所属 9 | 1 | 0 | 3,374 | 1.11% |
| 落選した無所属合計 | 18 | 0 | 23,482 | 7.74% |

定数50名に対し5名の連記で議席の独占という現象は、青ヶ島村・昭島市・八王子市以上に起こりえない。太田委員の想定に対しては、八王子市の事例と同様の批判が成り立つ。

本選挙においては公明党と自民党の過剰代表が目立つ。単純比例配分ならばそれぞれ5議席と14議席に過ぎない。大選挙区制は票を押しなべた方が議席を獲得しやすい。候補者の個性を際立たせ人気を得ようとするよりも、没个性的に同じ政策を訴える方が議席獲得につながりやすい。たとえば、公明党の下位当選者3名は、3,453票・3,388票・3,333票を獲得し3名の合計は10,174票である。社民党の3名は、5,836票・2,637票・1,761票を獲得し3名の合計は10,234票となり公明党の上記3名を上回っているが、1名当選・2名落選の結果となっている。政党の性格にもよるかもしれないが、大選挙区制は議員定数が増すほど比例的でなくなっているのではないかと判断が難しい。

八王子市よりも議員定数が多いので、さらに無所属候補が立候補し、多数落選している。5名までのグループ化が進むと推測される。

落選議員総数の得票数合計は58,632票で、これが死票の合計となる。死票率は19.33%であり、八王子市よりも増大している。無所属候補27名のうち18名が落選していることを考慮に入れると、無所属候補のグループ化が進む場合、死票率は下がると思われる。

八王子市の場合と同じ考え方で四分の一倍をすると、5名連記制を導入の際には死票率は4.83%となる。